

lù bù shī yí
路不拾遺

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から 文と訳・有為楠 君代

今日は、道德のお話です。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

昔、孔子が魯の国で役人をしていましたが、当時の社会のモラルはとても良いものでした。

ある日の夜、ある人が道端に玉が落ちているのを見つけました。彼は、この玉を落とした人はきっと探しに来ると思い、一晚玉の傍で見守りました。

次の日、果たして玉を探しに来た人があり、その人は、玉の傍で、自分の代わりに玉を守っていた人がいたのを知って、とても感激しました。

玉を守った人の話はすぐ人々の間に広がりました。

一般の人々は孔子の「道に物が落ちていても、拾って自分のものにしない」と言う考え方に影響されて、社会秩序は良くなり、誰も落ちているものを拾って自分のものにしなくなったので、貴重なものを失くしても、探せば必ず戻って来ました。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

言葉の意味：遺＝遺失物。道端に他の人が落としたものがあったとしても、他の人は誰もそれを拾って自分のものにしない。社会の気風がとても良いことの喩え。

使い方：「路傍の落とし物を拾わない、夜戸締りの必要がない」と言う世の中は、人々が憧れる社会だ。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

本の中では上記のように、孔子の感化でこのような社会が出現したと教えていますが、これは理想ですね。確かに孔子の目指す世の中はこのようなもので、彼が政治家として長い間活躍すれば、このような世の中が実現したかもしれませんが、孔子が魯の国で政治にかかわったのは5年程で、民を“路不拾遺”の境地に導くには短過ぎたようです。

実際、この言葉は史記の列伝「商鞅」のくだりに（「商君列伝」）に出て来ます。商鞅は秦の孝公に仕

えた政治家で、変法と呼ばれる制度改革を断行し、秦の国力伸張の基を築きましたが、その根本は法家の考え方で、法を厳しく適用しました。人々が道に落ちているものを拾って自分のものにしなかったのは、法の執行を恐れたためでした。

しかし、原因はどうか、表面的には孔子が理想とするような現象が現れたのですから、孔子の教えの結果を予想したり、強調したりする時にも使われるようになった言葉のようです。

ところで、私はこの言葉とはまるで反対のような出来事に遭遇したことがあります。もう 12, 3 年前

になりますが友人に誘われて、春節の田舎情緒を味わう旅に出かけました。春節の朝、付近の部落ごとに練り出すパレードを見学するのに、ガイドさんの尽力で村のお偉方が居並ぶ観閲台の片隅に、我々一行の席も用意していただき、開始時間に合わせて出かけました。例によって長い間待たされたので、トイレには皆で一度に行くことになり、女性陣 4, 5 人が連れ立って席を



挿絵 満柏氏

離れました。

トイレは春節で閉まっている役所の中であって、15分近く時間を費やし席に戻ってみると、私達の席に村の人達が座っていました。村人は私達を見ると直ぐどいてくれたので無事元の席に座ることが出来ました。

この時、すぐ戻る積りだったので、眼鏡を机の上に置いたままにして席を立ちましたが、戻った時、メガネはありませんでした。すぐに気が付き言いだせば出てきたかもしれませんが、その時は気付かず、そのままになってしまいました。忘れ物と思ったのかもしれませんが、戻って来た時、席と一緒に眼鏡も戻しておいてくれたらよかったのと思いました。

今はもうこんなことは起こらないでしょうが、中国の残念な思い出の一つです。